

事業所における自己評価結果

公表	
事業所名	さくら療育園

公表日 2026 年 3 月 19 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・視覚刺激の少ない環境設定を行っている ・定員に合わせたスペースの確保をしている	・活動内容に応じて部屋を選定していく必要がある ・少しでも室内を広く使う為に使用しないものは撤出する必要がある ・高学年の児童が運動する程のスペースは確保できない為、粗大運動以外の活動を取り入れていく必要がある
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		・基準人員を守ってシフトを作っている	・基準人員を守って配置しているが、イベント支援の日等は職員を多めに配置する必要がある
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・来所して自分が入る部屋が事前にわかるように部屋にマークと掲示を行っている ・物の場所を決め、構造化している	・建物上バリアフリーを整えることはこれ以上は難しい為、不要なものは撤去していくことを心掛けていく必要がある ・お客様のことを第一に考え、特性に合った事業所を紹介していく必要がある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎日清掃を行っている	・道路に面していることもあり、窓のサッシに汚れが見られる為、定期的に清掃していく必要がある
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・痙攣などでクールダウンが必要な際に別室を準備するなどの工夫をしている	・一人ひとりの特性に合わせて、同時刻の利用人数を調整する等してクールダウンの空間を確保していく必要がある
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	・定期的にミーティングを設けている	・シフト制の為、全職員が会議に参加することが難しい為、会議内容の共有を徹底する必要がある
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・評価アンケート実施後、検討会議を行い保護者様の思い等も職員間で共有し、教室運営に活かしている	・評価アンケート実施後だけではなく、日々保護者様の意向を把握していく必要がある
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・職員会議で共有と検討を行っている	・業務改善に努めた後も、より良い環境を整える為に精進していく必要がある
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	・必要に応じて検討していけるとよい	・現在は行っていないが、必要に応じて実施していく必要がある
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・支援学校等で行われている研修にも参加している ・法人内でも様々な研修の機会が確保されている	・研修に参加した後、職員間で学んだ内容を共有する機会を必ず設定していく必要がある
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・ホームページにて公表している	・内容に変更があった際は、必ず修正していく必要がある
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・お子様一人ひとりに合った支援を実施している	・内容の変更がある場合は、早急に修正していく必要がある
	13	放課後等デイサービス計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・職員複数人で会議を実施している	・今後も職員が多く出席できる日で会議日を設定する必要がある
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・支援に入る際は必ず個別支援計画を読み込み、支援を組み立てている	・集団支援実施の際、活動内容に偏りがないように工夫していく必要がある
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・お子様一人ひとりのアセスメントが実施できている	・聞き取るだけでなく、日々の様子等を踏まえたアセスメントを心掛ける必要がある
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・具体的な支援内容を項目ごとに設定している	・日々ガイドラインを確認し、業務を遂行していく必要がある
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・チームで相談しながら実施している	・今後も意見を言い合える環境を整え、チーム支援を行えるように努める必要がある
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・記録を参考にしながら固定化しないよう工夫している ・お子様の意見や考えも取り入れた支援を取り入れている	・お子様が楽しんで取り組めるよう、一人ひとりの考えや思いも汲み取って支援を組み立てていく必要がある

な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		・お子様の特性や障害度合いに応じて個別支援や集団支援を行っている	・一人ひとりのお子様に合わせて支援内容をこれからも模索し、実施していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・チームでコミュニケーションを密に取っている	・継続して朝礼で当日の役割分担やタスク等を確認し、チームで連携する体制を整えていく必要がある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・終礼で共有事項を検討している	・支援の振り返りだけではなく、お子様や保護者様の变化等も共有していくことを心掛けていく必要がある
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・ケース記録を必ず残している	・今後も丁寧にケース記録を取り、日々ブラッシュアップした支援を提供していけるようにしていく
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・定期的にモニタリングを行い個別支援計画を更新している	・一人ひとりのお子様に合わせて支援を提供する為に、お子様に合った支援計画を作成していく必要がある
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		・4つの基本活動をまんべんなく取り入れた支援を実践している	・社会参加に関して、頻度が少ない為、今後は自立に繋がる支援を心掛けていく
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・一人ひとりの思いを尊重した支援を心掛けている	・職員が決めるのではなく、最終的には自己決定する機会を設けるよう心掛けていく
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・医療機関に見学に行く等も行っている	・関係機関と連携し、一人ひとりに合った支援を提供することを心掛けていく必要がある
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	・様々な機関と連携している	・地域医療と繋がり、支援をするケースが減っている為、必要に応じて医療機関との連携を図っていく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	・関係機関との連携を定期的に行っている	・現在も在籍している学校や関係機関とは支援内容等を共有しているが、頻度が少ない為、頻度やタイミングはお子様に合わせて変えていく必要がある
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		・児童発達支援から継続して放課後等デイサービスを利用していた方が多い為、就学前の園と情報共有ができていく	・放課後等デイサービスから利用している方に関しては、過去の事業所とは連携が図れていない為、必要に応じて連携していく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1	・今まで障害福祉サービスに移行するケースがなかった為、実施していない	・必要に応じて、実施していく必要がある ・他事業所へ移行を行った場合も、丁寧に引継ぎする必要がある
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		・必要に応じて実施していく	・就学後児童発達支援センターと連携を図ることは少ないが、必要に応じて保護者様に許可を取り、現在の様子等も共有していく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	・現在放課後クラブや児童館との交流は実施していないが、地域のイベント等には少しずつ参加している	・保護者様よりニーズがあがった際は機会を設定していく必要がある
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。				
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・日々保護者様とコミュニケーションを密に取っている	・今後も継続して、保護者様とお子様の発達の状況や課題について伝え合う必要がある
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		・動画研修や外部講師を招いた講習会等を企画している	・継続的に保護者様のニーズに合わせて家族支援を実施していく必要がある
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明を行っているか。	6		・契約の際に細部まで説明している	・契約時に伝えた内容から変更等がある際は揭示するだけではなく、口頭でもしっかりと説明することを心掛けていく必要がある
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・アセスメントではお子様のニーズと保護者様のニーズのどちらも考慮している	・職員の思いではなく、お子様や保護者様の意向に沿った計画を作成することを徹底していく必要がある
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		・毎回時間取って内容を説明し同意を得ている	・内容を読み上げるだけではなく、なぜその支援計画になったのかも具体的にわかりやすく説明することを継続して実施していく必要がある
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・定期的に相談支援を実施している	・ご希望に合わせて家族支援を実施しているが、お子様によっては頻度が少ない場合もある為、保護者様と相談しながら継続して実施していく必要がある
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5	・児童発達支援と合同で保護者様交流会を実施している	・放課後等デイサービスの保護者様向けの保護者様交流会が少ない為、今後検討していく必要がある

	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・相談聞き取り、臨機応変な対応ができるようにしている	・今後も迅速かつ適切に対応していく為に、職員間での報連相を徹底していく必要がある
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		・通信を毎月発行し、情報を発信している	・毎月通信を発行しているが、SNSの更新頻度が少ない為更新頻度を上げていく必要がある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・個人情報の取り扱いマニュアルに則って営業している	・今後も個人情報の取り扱いに十分に留意していく必要がある
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・利用者に合わせた意思疎通の方法を検討して実施している	・今後も教室全体で情報を共有し、配慮していく必要がある
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	・外部向けのチラシを作成し相談に乗れる体制を整えている	・現在地域住民を招待することは実施できていない為、イベント等で地域の商業施設を訪れる等、違った形で交流を図っていくことを検討していく必要がある
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		・訓練を定期的に実施している	・現在も訓練は行っているが、様々なケースを想定し、訓練を実施していく必要がある
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・BCPを策定し、定期的に訓練を行っている ・職員全体での理解を図れるよう情報共有をしている	・今後も非常時に備え、定期的に様々なケースの訓練を実施していく必要がある
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		・契約時に状況を把握し、いつでも確認できるよう保管している	・服薬等に関しては事前に確認しているが、その日の体調等もしっかりと把握し、対応していく必要がある
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		・アレルギーについて適切な対応を把握し実施している	・アレルギーに関しては事前に確認しているが、食物を使用する際は、再度確認し安全に留意する必要がある
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・安全計画を職員全体で共有している	・今後も継続してお子様の安全に留意して支援していく必要がある
非常時等の対応	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		・家族への周知を掲示物などで行っている	・掲示等で周知しているが、わかりづらい部分もある為、定期的に知らせていく必要がある
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・毎月定期的にヒヤリハットを共有している	・都度ヒヤリハットを共有しているが、安心安全の為に小さなヒヤリハットも見逃さないように配慮する必要がある
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・定期的に虐待防止研修を受講している	・今後も研修の機会を設け、全職員で虐待防止の意識を高めていけるように努めていく必要がある
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		・身体拘束についても事前に確認している	・今後も必要に応じて個別支援計画に記載していく必要がある